

ともに、夢のかけ橋として昭和三十八年から四十一年までの工期で始められていた天草架橋関係の道路についても、着々と整備されて行くことになりました。

★港湾に九億三千万円

道路橋りょうと並んで、産業基盤の大きな柱である港湾の整備を進めていきますが、本年度は特に、八代港地区を新産都市建設の南の中心地帯とするため、外港（一万トン級の船舶が着岸できるような施設を工事中）、内港の整備を促進するとともに、八代港代行干拓地を工業用地として造成するため、逐次買収を進めることとしています。

★住宅対策

住宅難を緩和するため、県営住宅を熊本市八島に百七十四戸、建売住宅五十戸を建設することとしています。一方、宅地を購入したい人のため、熊本市江津湖附近に四万八千坪の宅地を造成することとしています。

★河川改修と砂防

災害を未然に防ぐため、川幅の拡張、川岸の補強など河川の改修に重点をおき、特に、坪井川、井芹川などの都市周辺地域の治水対策に力を入れています。なお、氷川の上流に多目的ダムを建設するための調査を行なうこととしています。

砂防事業は、五木地域とその隣接地域を重点に事業が進められます。

教育 百四十七億円

教育費は百四十七億八百五十七万円と

県の予算のうち最も多く、県予算総額の約三四％をしめています。教育費のうち、人件費が百三十五億五千万円で、約九二％と大部分をしめています。これは、小、中、高等学校の教職員の人件費が主となっています。

本年度は、高等学校の授業料を、全日制高校について、月額二百円の引上げを行ないました。これは、昭和三十三年四月、授業料が現行の額に改定されてから、すえ置きとなっていました。今年、学校運営費も増加してきていますので、やむを得ないものとして実施しましたが、これによる増収分は、高校教育の充実にあてることができました。

生徒の学習の場である施設については、高校生徒急増対策としての増築工事を進めるとともに、危険校舎、施設不足の校舎や体育施設等についても、逐次、新築増築をはかることとしましたが、特に本年度は、菊池農業高校を自営者養成の農業高校とするための施設の整備と、養護学校の校舎の新築を行なうこととしました。これらに要する投資的経費として、六億七千六百万円を計上。

義務教育諸学校では、学級定員を四十九人から四十八人とする編制替えを行な

い、また、特殊教育の振興をはかるため小学校、中学校で特殊字級の新增設を行なうこととしました。

★菊池農業高校と自営者養成

本県農業の将来をなう中堅農業者の養成をはかるため、菊池農業高校を自営者養成の農業高校として発足させることとしました。

本校は、昨年から菊池市花房台地に校舎を建築中ですが、自営者養成の農業高校とするため、本年度は、寄宿舎及び農場施設を新築するための経費一億九千四百万円を計上しています。

★身体不自由児のための県立養護学校を工事

昨年度、身体不自由児のための教育施設として、県立養護学校を設置することを決め、用地を購入しましたが、本年度から校舎及び寄宿舎の新築に入ることとして七千万円を計上しています。

この学校は、松橋療護園で医療を主としているのに対し、身体不自由児の心身の障害を克服して、社会に力強く自立していくための教育を行なうのが目的です。

警察 二十三億二千万円

警察関係に要する経費は、総額二十三

億二千三百万円。このうち、警察職員等の人件費が十九億六千二百万円で八四・五％をしめています。

熊本県の警察官の定数は、現在二千二十名で、警察官一人当りの人口負担は、九百九人となっています。

最近の犯罪は、広域化し、スピード化したため、これに応じて必要な捜査用の器材等を整備し、機動力を強化して、暴力犯等の根絶を期することとしましたが、同時に刑事警察官を六十名増員することとしました。

また、交通事故防止の強化をはかるため、設備器材等を充実するとともに、機構の面でも、本年度から交通部を新たに発足させることとして、交通安全対策の強化をはかることとしました。

自動車免許の受験者が増加している中で、松橋町にある自動車運転免許試験場を逐次整備してきましたが、試験コースの増設や、試験室等の施設を拡充するための経費一千三百万円を計上。免許関係試験官等を増員し、受験者の便利をはかることとしました。

次に施設の面では、引き続き、老朽化している派出所、駐在所の整備を行なうほか、警察官の待機宿舎を約三千四百万円を新築することとしました。

(財政課)

八代西瓜



新産業風土記

——初夏の風物詩——

初夏の声をきく頃になると、くだもの屋の店先に、可愛らしい小さい西瓜を見ることが出来る。これが八代の郡築、昭和、金剛地区でとれる小玉西瓜だ。

抑成トマトの後に作られているもので現在のところビニールハウス、大型トンネルあわせて43ヘクタール約1,300トンの多収穫ぶり。

県では42年度には作付け面積を100ヘクタールにし、収益も現在の3,500万円を約1億円まで伸ばす計画をたてている。

出荷先は、地元はもちろん、北九州、大阪方面。市場でも好評で生産者の意気をもり上げている。



右・優れた品は、たゆみない消毒作業から。



上・大きいのは3キロもある。箱づめの時が一番忙しい



左・玉のとまり具合を普及員から指導を…

下・ずっしりとした重み…収穫のよろこびが…

